

授業科目(ナンバリング)	障害の理解Ⅱ (DA315) (実践的教育科目)			担当教員	柳 智盛・※田中千恵美 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本授業は前期開講科目「障害の理解Ⅰ」を踏まえた科目である。引き続き障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解し、障害のある人を理解するため、障害のある人の身体機能や心理・社会的側面に関する基礎的知識を習得する。その基礎的知識から、障害のある人の地域での生活を目指すため日常生活に及ぼす影響を理解し、障害のある人の日常生活における体験を理解する。同時に、障害のある本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。以上を通して福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。</p>							③⑤ ⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	障害のある人の身体機能や心理の基礎を理解し、それをを用いて説明ができる。				・最終回テスト	50%	
情報収集、分析力	障害者の生活や心理的特性についての諸問題及び取り組み方について調べ、それに対し指摘できる。				・最終回テスト ・課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	障害のある人とかかわり方や諸問題に対する支援について、ディスカッションを通して自分の考えを表現することができる。				・受講者の発表 ・課題レポート	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	障害のある人の多様性を理解し、専門家として具体的にどのように接していくのかなどの支援を考えられる力を培うことができる。				・最終回テスト	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>・最終回テストの評価は 70%とし、2 人の担当者ごとの授業内容について最終回テストを行い、評価の配分に示した通りに評価を行う。課題レポートは、授業で提示される課題及び感想の内容を 20%、受講者の発表は 10%とし評価した上で、最終回テストと総合評価を行う。なお、発表・課題レポートについては、次回の授業でフィードバックする。</p> <p>・担当者ごとの最終回テストは担当者によるが、基本的に選択式及び記述形式で問う。設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるかを評価する。最終回テスト後の授業及びポートフォリオを通してテストのフィードバックを行う。評価の配分は、柳担当：田中担当＝1：2 とする。</p>							
授業の概要							
<p>障害の基本的考え方の上に、障害のある人を理解するため、障害者の心理や身体機能に関する様々な障害（身体障害、精神障害、知的・発達障害、難病など）の種類や原因、特性を学んでいく。また、障害が及ぼす心理的影響やその支援について学んでいく。障害が日常生活に及ぼす影響を学び、その生活を考え、障害のある人、その家族への支援や、そこに携わる保健医療福祉職の連携と協働について、医療現場や役所で看護師・介護関連専門員の経験をもつ教員と心理臨床の現場での経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。</p> <p>授業は基本的に講義形式で行い、1～5 回の柳、6～15 回の田中による担当分野を学ぶ。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新介護福祉士養成講座 14 (2019)『障害の理解』中央法規 参考書：系統看護学講座『解剖生理学』医学書院 *参考書は田中担当分野にて使用するが、教員が適宜資料を配布するため必ず購入する必要はない。 指定図書：最新介護福祉士養成講座 14 (2019)『障害の理解』中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>介護を学ぶ者として、障害のある人々の気持ちを理解することは重要なことである。障害者やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識の修得だけでなく、障害のある人のことを具体的に考えて取り組むこと。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	発達障害児・者の理解	発達障害の特性とその対応について学び、日常生活支援やコミュニケーションについて考える。(柳)	予：発達障害の特性について事前に理解しておくこと。 復：発達障害児・者への対応を考える。
2	家族への支援①	先天性の障害のある人の家族の障害の受容とその過程での援助について学ぶ。(柳)	予：先天性障害のある人の受容について理解しておくこと。 復：障害受容について理解する。
3	家族への支援②	家族の介護力の評価やレスパイト、支援について学び、家族への関わりについて考えていく。(柳)	予：家族の関わりの問題について調べておくこと。 復：家族支援について考える。
4	連携と協働①	行政・関係機関、自立支援協議会との連携について学び、地域におけるサポート体制を考える。(柳)	予：連携の意義について考えておくこと。 復：連携と協働について考える。
5	・連携と協働② ・最終回テスト	・保健医療職種や他の福祉職種との連携について、事例を通して学んでいく。 ・1回～5回の内容に関するテストを行う。(柳)	予：諸機関との連携のあり方についてまとめておくこと。 復：連携と協働について考える。
6	障害者福祉とその基本理念Ⅱ	障害者福祉とその基本理念について学ぶ。(※田中)	予：第1章を読む。 復：ノーマライゼーションについて考える。
7	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 精神障害のある人の介護①	精神機能障害がある人の基本的な介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：精神障害者に対するイメージについてまとめておくこと。 復：精神障害者の介護を考える。
8	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 精神障害のある人の介護②	薬物依存、統合失調症がある人の介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：統合失調症について調べておくこと。 復：精神障害者の介護を考える。
9	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 精神障害のある人の介護③	気分障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：気分障害について調べておくこと。 復：精神障害者の介護を考える。
10	障害を受けた人に対する介護の視点①	・障害を受けた人に対する介護の視点について学ぶ。 ・自立支援へ向けた介護、障害を受けた人との生活を支える介護について学ぶ。(※田中)	予：障害者総合支援法についてまとめておくこと。 復：障害者総合支援法を理解する。
11	障害を受けた人に対する介護の視点②	・障害を受けた人に対する介護の視点について学ぶ。 ・障害者の就労支援について学ぶ。(※田中)	予：障害者の就労を支援する施設を調べておくこと。 復：就労支援を理解する。
12	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 内部障害のある人の介護①	心臓、呼吸器機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：心臓と肺の役割についてまとめておくこと。 復：内部障害者の介護を考える。
13	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 内部障害のある人の介護②	腎臓、膀胱機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：腎臓と膀胱の役割について調べておくこと。 復：内部障害者の介護を考える。
14	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 内部障害のある人の介護③	直腸、小腸、免疫機能障害がある人の介護の捉え方について学ぶ。(※田中)	予：小腸と大腸の役割について調べておくこと。 復：内部障害者の介護を考える。
15	・コミュニケーションを通しての障害の理解と支援 ・最終回テスト	・コミュニケーションを通しての障害の理解と支援について学ぶ。 ・6回～15回の内容に関するテストを行う。(※田中)	予：発語の機序について調べておくこと。 復：障害の理解と支援について考える。